

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001418		
法人名	有限会社たけのこ		
事業所名	グループホームたけのこ (85番地)		
所在地	愛知県豊橋市駒形町字退松85番地		
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果市町村受理日	令和8年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2372001418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2372001418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和8年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様もスタッフも毎日を笑顔で過ごせる温かな環境づくりに力を入れています。利用者様が少しでも安心してなじめるよう、無理のない自然体の生活スタイルを大切に、一人ひとりのペースや個性を尊重した支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価の当日、運営推進会議と「ちいきカフェ(認知症カフェ)」の開催があり、評価員2名はそれらにも参加した。運営推進会議には利用者全員と複数の家族の参加があり、地域包括支援センター、自治会役員、民生委員、ボランティア講師等々に加え、勉強を目的として市議員の参加もあった。会議の中で、社会保険労務士を講師として、ハラスメントの学習会が開催された。  
3月としては暖かな日、ホームの庭の全面と通所施設を会場として「ちいきカフェ」が開催された。スタッフはすべて地域のボランティアであり、地元の小学校の校長に引率された児童が、てきぱきと仕事をこなしている。昼食の用意は、毎回民生委員OBのグループが担当している。地域の老人会や家族の有志が、スタッフとして運営に加わることもある。地域連携の「確かさ」が見てとれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝の申し送りで復唱している。 ・理念は掲示されているがパートさんは復唱する機会がない。 ・理念の詳しい意図を知る機会があると良い。	正規職員は申し送り時に理念の唱和を行っているが、非正規のパート職員は理念に触れる機会がない。理念が記された文書がファイルに綴じ込まれているが、それを見る機会も少ない。	理念に基づいた支援が実践されるよう、職員全員への理念に関する教育が求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ちいきカフェの開催。・盆踊りの行事に地域の方も参加。	冬期(12月～2月)を除き、毎月第4土曜日に「ちいきカフェ(認知症カフェ)」を開催している。運営スタッフは、校長に引率された小学生、民生委員のOB会、老人会役員等々、地域に根付いた人たちである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の小、中学生の福祉体験を積極的に受け入れている。ちいきカフェには小学生ボランティアが参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1度実施。利用者、家族、自治会長、地域包括に参加いただき、活動報告など話し合いを行い意見を伺いサービスに活かしている。	運営推進会議に利用者全員と家族、地域包括支援センター、自治会役員、民生委員、ボランティア講師、外部評価員等々に加え、今回は市議員の参加もあった。社労士によるハラスメント研修も行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務所で対応。市役所長寿介護課、東三河広域連合と連携をとっている。分からないことあれば相談している。	「福祉の現場を見て、学びたい」との目的で、運営推進会議や「ちいきカフェ」に市議員の参加があった。地域の福祉行政に関わる様々な役割を持った人の参画は、ホームにとっても望むところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議で状況報告、相談を行っている。虐待防止の勉強会も行った。安全面(無断外出)を優先しすぐに鍵をかけてしまう癖がついている職員もいる。	身体拘束をしない支援が基本となっており、利用者は自由度の高い生活をしている。特別な心配事がない限り、夜間を除き玄関は無施錠である。念のためにGPSを付けているが、利用者が一人で自由に外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・運営推進会議で報告、相談を行っている。 ・身体の状態を確認し、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・85番地で成年後見を利用されている方はいない。 ・年に1度成年後見制度の研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・事務所で行っている。ホームの見学時、入居前に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議に家族の方にも参加していただき意見をもらっている。 ・毎月のお手紙で意見要望を聞いている。	感染症の発生状況にもよるが、現在は制限を設けずに家族面会が行われている。運営推進会議へも家族の参加が多く、家族の意見を尊重したホーム運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に2回、個人面談がある。 ・生産性向上委員会での話し合い(月1~2回)	毎月数回の生産性向上委員会を開催し、職員意見を聞き取っている。かつては管理者(法人代表)と職員との「交換ノート」の取組みがあったが、現在は行われていない。	面と向かっては言えないことも、ノートでワンクッション置いてなら話せることもある。「交換ノート」の再開を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回、個人面談がある。随時個別相談。・頑張った職員に表彰している。 ・職員とパートの給与水準を踏まえると、業務に対する意欲や充実感がやや損なわれる可能性がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・虐待、感染症、防災の研修がある。入社後は慣れるまで先輩職員につき業務を教えてもらう。・理学療法士から移乗の仕方等の介護技術を教えてもらう。 ・資格取得の支援を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・東三河輪投げ大会の参加。 ・近くのグループホームとの交流をもつ予定。 ・機会はあるが交流できない職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・24hシートを活用して細かく記録し情報を共有している。 ・日々の関りが信頼関係につながると思うので安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時など、家族と話す機会があり関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に事務所で家族から本人情報を聞き、アセスメントシート、計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・朝の報告を聞き、利用者さんが必要としているケアを大切にしている。 ・一方的になってしまうこともあるがお互いが穏やかに生活できるよう努めている。 ・利用者と信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・様子を伝えたり、情報交換、共有をしている。 ・本人の思いと家族の思いにずれ違いがないようにしている。 ・面会に来られる家族とは築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会、外出支援を行っている。	毎月開催される「ちいきカフェ」には、様々な人たちがスタッフとして参加している。それらの人たちと利用者とは、馴染みの関係を築きつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・合う合わないを考えながら状況に合わせて支援し、スタッフが間に入ることで関わり合いがもてる。 ・支援はするが利用者同士の関係を築くのは難しい。 ・気の合いそうな人で作業など関わり合える環境を作る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了しても必要時にフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の流れは決まっているものの、希望に添えるよう考えているが、「寝たい」という希望は寝たきりになってしまうので活動できるような声を掛けている。	要介護3以上の利用者が10名おり、重度化が進んではいるが、自らの意思を表出できる利用者もいる。利用者の要望や意向を掴んだ場合には、基本としては叶える方向で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞いた情報や、来所時に話を聞く。また、本人との会話で聞けることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの現状、状態等を把握し、必要時話し合う。 ・本人の好きなこと出来ることの声掛けを行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、家族から意見をもらい、都度困ったことや課題などあればスタッフ間、事務所と相談しながら解決策をみつけるよう務めている。	利用者や家族の意見、意向を反映させた介護計画を作成している。しかし、職員周知が図られておらず、利用者個々の介護計画(課題、目標、実施方法等)を理解していない職員がいる。	「介護計画に基づいて支援する」という原則を、今一度職員間で徹底されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎月の個別の記録表を記入し情報交換、共有するようにしている。 ・充分活かしていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々に合わせ取り組んでいる。 ・ターミナルケア対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社、コンビニ、サンキューカットの利用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前より行き慣れたHPへの受診可能。その場合は家族に付き添いをお願いしている。 ・状況に合わせてかかりつけ医院となっているHPへ受診。	かかりつけ医として馴染みの医療機関を使う場合の受診は、家族対応が原則である。ホーム協力医をかかりつけ医とした場合も通院受診となるが、付添いはホームが担当している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤NSと常に情報交換、共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事務所対応。入院時に本人の情報を提供し、退院に向けて病院の相談員さんと話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を的確に把握している現場職員の意見を踏まえ、状態の変化や段階に応じて、本人・ご家族・管理者と連携しながら終末期に向けた話し合いを適切に進めている。	利用契約時に重度化対応の指針を説明し、家族の同意を得ている。ほとんどの家族がホームでの看取りを希望しており、条件が揃った場合に看取り支援を行っている。条件が合わず、入院や特養施設へ移行となるケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当、初期対応の訓練を定期的に行っていない。 ・やや不安 ・緊急時はすぐに事務所、NSへ連絡できている。 ・急変時の対応はしたことがないが何が起こってもおかしくないと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・玄関までの避難訓練はできている。 ・津波、地震など色んな場合を想定して避難方法を考えた方がよい。いざという時の判断ができない。 ・非常食の準備はされている。	年間2回、防災訓練として玄関までの避難を習慣づけている。津波や洪水による浸水被害が想定される地域であるが、垂直避難の訓練は実施していない。備蓄品はローリングストック方式で管理している。	ホームは平屋建てであることから、隣接する通所施設の2階への垂直非難の訓練が必要となる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・それぞれの方に合わせた声掛けを行っている。 ・プライバシーを守りながら一人ひとりの人格を尊重し、声掛けしている。	利用者の権利擁護については、これまでに職員研修等で学ぶ機会があった。今回、利用者によるカスタマーハラスメントが問題提起された。運営推進会議の場に社会保険労務士を呼び、学習会を行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の思いを尊重し、自己決定できるよう支援している。 ・希望を聞いている。 ・本人の意思確認、対話をするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご本人のペースを尊重しつつも、活動性の低下が見られる場合には、必要に応じてこちらの判断を優先して支援している。 ・自分で決められない方はその時の表情、様子で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝のホットタオル、整髪を支援。自分で選べる方は好きな服を着たり、一緒に選んだりする。 ・季節に合った身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・一緒に天ぷらやちらしを作り好評だった。 ・味噌汁は作ってもらえる時声掛けしている。 ・下膳や洗い物、食器拭きなど一緒に出来るよう声掛け。 ・食事が楽しみになるよう、見た目、食べやすさに気配りしている。	事務室に2基の保冷庫を備え、チルド食を提供している。コロナ禍以降、企画した外食支援はないが、家族との外出の機会に外食を楽しむ利用者はいる。地域や家族から、旬の野菜等が届く。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・好き嫌いや飲み物の好みに応じて、ふりかけやスポーツドリンクを活用し、量や食べやすさも調整して工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に声掛けを行い、拒否がなければ口腔ケアを実施できている。半年ごとに歯科検診と磨き方の指導あり。歯茎出血のある方には口腔ブラシを使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・基本は自立できるよう心掛けています。 ・定時で声掛け、案内している。そわそわしているなどのサインもあるので見逃さないようにしている。	職員の適切な声掛けや案内によって、ほとんどの利用者がトイレで排泄している。都度、職員は排泄の状態を「生活記録」に記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・必要時にDr.に相談。・水分を多めに摂ってもらうようにしている。・散歩や体操などで身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に無理のない範囲で行い、希望があれば湯船にも入っていただいています。曜日や時間帯はスタッフの状況に合わせてありますが、季節や体調に応じて、できるだけ利用者の意向に沿うよう努めています。	週に2回の入浴を基本としているが、利用者の希望があれば、毎日の入浴にも対応が可能である。季節の湯は立てず、入浴剤も使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ウトウトしているときは居室で休めるように案内しています。「さみしくて眠れない」と言われる方は安心してできるよう声掛け。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬が変わった場合はすぐに連絡をしている。誤薬が起きないように飲む前に確認し気を付けている。 ・副作用など個別ですべて理解するのは難しいのでファイルにまとめてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者ができることを見つけて取り組めるよう支援し、気分転換や楽しみの時間も工夫している。体力や集中力の低下で、楽しめる時間が限られることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族と自由に外出・外食ができる。 ・「どこに行きたい」といった具体的な希望を口にされる方は少数である。 ・散歩、買い物等の外出については、可能なタイミングで支援を実施。・自発的に好きな時間に散歩をされる方もいる。(2名)	散歩は日課となっており、2名の利用者は安全のためにGPSを付け、一人で自由に外出している。大がかりな企画外出は実施していないが、時季を見て花見や初詣、文化展等に出かけている。家族の支援で外出し、外食を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・事務所で管理し、お小遣いとして必要な時に使える。 ・85番地には1名自分でお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望にそって自由にできている。 ・贈り物が届いた際には一緒に電話するようになっている。 ・年末には年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎朝、カーテンを開けて朝日を取り入れている。 ・空気の入れ替えを定期的に行う。 ・十分ではないが居心地が良くなるよう心掛けている。	各ユニットのホールは天井が高く、開放感がある。ユニット間に多目的室があり、40名ほどが集まる運営推進会議の会場となる。気功や習字、脳トレ、体操等の教室として活用されており、各種イベントの会場ともなる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにソファがあり、利用者同士と一緒に過ごしお話ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家で使っていたものをそのままホームで使うことができる。 ・家族の写真を飾っている。	これまでの暮らしの延長となるような居室づくりを支援し、使い慣れた家具や調度を揃えた居室が多い。居室内に、家族の写真や習字教室での作品等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホームはバリアフリーになっており、ところどころに手すりがある。居室にも必要時テーブルや椅子を置き、安全かつできるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。表札をつけているので自分の部屋が確認できる。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001418		
法人名	有限会社たけのこ		
事業所名	グループホームたけのこ(88番地)		
所在地	愛知県豊橋市駒形町字退松85番地		
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果市町村受理日	令和8年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372001418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372001418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和8年3月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは大きな事業者ではありませんが、「たけのこ」との出会いを通じて、「来て良かった」と感じていただけるような、笑顔の絶えない幸せな居場所づくりを目指しています。  
 ご利用者が自宅と同じように、安心して日常生活を送れるよう心がけています。また、ご本人やご家族の希望があり、可能であれば、人生の最期まで穏やかに過ごしていただけるよう応援いたします。  
 利用者・スタッフ・ご家族の皆さまが、共に笑顔になれる環境づくりを大切にしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝の申し送りで理念を復唱している。 ・理念を共有し、実践できている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度のちいきカフェ、夏祭りなどの行事で交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の場を通して一緒に過ごすことで活かされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、活動状況を報告し、話し合いを行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所長寿介護課、東三河広域連合と連携を取っている。分からないことあれば相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さん第一で考え、ユニットミーティング、運営推進会議で話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者との話し方、接し方に気を付けています。虐待が見過ごされないよう注意している。 ・運営推進会議で虐待の研修、話し合いを行い意見を伺っている。学ぶ機会がないスタッフもいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・年に1度、成年後見人より権利擁護の研修をして頂いている。 ・88番地で現在利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・見学时、入居時に説明を行い契約している。 ・契約内容について定期的に現状をご説明し、ご理解・ご納得いただけるよう努めたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や毎月のアンケートで要望を聞き、実行している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・そこが一番大事、そういう機会をたくさん設けて欲しい。 ・ミーティングで話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者との面談で個々の把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修を受ける機会を設けている。 ・働きながら介護福祉士の資格を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ前は介護研修に参加していた。 ・東三河の輪投げ大会に参加。 ・市役所のグループホーム作品展で他事業所の活動を見る機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者に不安を与えない、安心できる接し方に務めている。 ・意思疎通ができる人にはきちんと耳を傾けるようにし、できない方は自分なりに考え接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族に利用者が安心できるように要望を聞いている。 ・家族との話し合いは、理解していただく上でも信頼関係に結びつく事ではないかと思えます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前に事務所で家族から本人情報を聞き、アセスメントシート、計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・安心して頼ってもらえる関係を築いている。 ・個人として共に生活する事を頭に置いています。 ・その方に寄り添った対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との連携を大切にしている。 ・面会時に普段の様子などを報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用の親族が来訪されたら面会して楽しく過ごされています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の気が合う同士の関わり合いに務めています。 ・孤独感を感じさせないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・そこで終わりにならないように、日頃から家族との関りを大切にしたいです。 ・利用終了しても必要時にフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常にこの方の立場に立って、何が最善かを考えています。 ・一人ひとりの思いを聞いています。 ・本人が選択できる場面ではできる限り行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの生活歴を知り把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・今日一日、どう過ごしたかを把握し夜勤に取り組んでいる。 ・一人ひとりの行動、過ごし方を把握、なるべくその方に合った過ごし方にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・話し合いと、それを皆チームでやるのが大切。 ・困ったこと、課題点があれば相談しながら解決している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・報告・連絡・相談は常にできるようにしています。 ・個別記録表に記入し、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・対応しているが柔軟にはできていない。 ・家族と段階に応じて話し合いターミナルケアなど対応している。 ・困ったことあればその都度対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方に支えられていると感じる。 ・もっと出来ることがあるかもしれない。 ・ちいきカフェ、お祭りで地域の方、利用者が参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診の支援をしている。 ・希望する病院へ行くこともできるがホームで行く場合は近くの協力医院へ変更していただいている。 ・病院受診が難しい方は往診を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・少しでも気になる点や気づきがあれば看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・事務所対応。入院時に本人の情報を提供し、退院に向けて病院の相談員さんと話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状態の変化によって話し合いを行い、家族と協力してホームで出来る範囲内でターミナルケア等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故対応マニュアルが業務日誌に記載されているが、焦らず対応できる自信がない。 ・応急手当や対応の訓練ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練は行っているが、夜間職員が少ない時に正しくできるか不安。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守っています。 ・その方に合ったプライドを傷つけない声掛けを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の自己決定を大切にしています。 ・本人が決められるよう、分かりやすく聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・無理のない程度に利用者さんを第一に考えて支援している。 ・希望に添えるように心掛けているが職員側のペースになってしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝、晩のメリハリがつくようにしている。 ・声掛けて服を選んでもらうようにしている。 ・男性利用者は髭剃り、頭髪カット。女性利用者は希望で美容院を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食は利用者と職員と一緒に食事をしています。 ・準備や片付けは現在できる方が少なく、あまりできていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量、栄養のバランスを考えています。水分確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後には口腔ケアの声掛けをしている。 ・歯科検診で磨き残りチェックや、磨き方の指導がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレで排泄できるように支援している。</li> <li>・トイレ案内チェック表を活用し、個々のタイミングや回数を把握している。</li> <li>・夜間は安全面も考慮し対応している。</li> </ul>		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や散歩をし身体を動かして予防している。</li> <li>・水分補給を意識している。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の時間帯については、利用者のご希望を尊重し、夕方を好まれる方には、その時間に合わせて対応している。・希望のない方は職員のタイミングで声掛けしている。</li> </ul>		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</li> <li>・一人ひとりの生活習慣で休息や安眠の支援をしている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりに確実に服薬支援と状態の変化に務めている。</li> <li>・記録に残し分かるようにしている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭の草取り、花を生けたりしています。</li> <li>・散歩や本人ができることはなるべくやってもらうように気を付けています。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と外出できるように支援しています。</li> <li>・戸外に行けることは気分転換になり良い。</li> <li>・外出をもっと増やしていきたい。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者が買い物で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に電話できるように支援しています。 ・年賀状を家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は広く動きやすいように工夫しています。 ・生活感や季節感を大事にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間にソファがあり、のんびりできるような居場所の工夫をしている。 ・すべての人に出来ているか分からない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には個室トイレがある。 ・家族と相談しながら工夫していきたいです。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、個々の残存機能を活かせるように努力しています。 ・一人ひとりの力を活かし安全に自立した生活が送れるようにしている。 ・こちらでやってしまうこともある。		